

目次

- ・ オピニオン...「聞く」「話す」「読む」「書く」の4つの能力を (1)
- ・ センターニュース...「共通教育企画・実施部会議」他 (2)
- ・ 授業のティップス...「大人数のクラスの雰囲気づくり」 (4)
- ・ センター運営委員会の動き...(5)
- ・ センター日誌...(6)
- ・ 授業に役立つ道具箱 ...「多様な授業の方法を」 (7)
- ・ 学生の声...「150人の人数制限は許されるか」 (7)

オピニオン

「聞く」「話す」「読む」「書く」の

4つの能力を高めたい

大学教育総合センター 副センター長
英語教育センター長 真鍋 敬

ルネッサンスプランの下、共通教育の英語教育は大きく変わりました。現段階では、どのような成果があがっていますか？

2001年度から実施されたルネッサンスプランでの英語教育の目標は、学生の皆さんが卒業後何らかの形で世界各国の人々とつながりを持つようになることを見越して、国際的なコミュニケーションのための英語の授業を提供することでした。そこで、クラス人数を以前の約50人から20人に減らしたり、ほとんどの授業をネイティブスピーカーの教員が担当して、授業中は英語だけを使う約束にしたり、英語Aと英語Bでは共通テキストによって授業内容を統一して、皆さんが英語で発言しなければ授業が成り立たない授業形式にしました。

私も時々授業参観に行きますが、積極的に笑顔で対話している様子を見ると、学生生活のあらゆる面で皆さんの積極性が高まっていくのではないかと楽しみになります。相手の言葉に応じて返事をしたり、自分の意見を述べたりすることは、社会生活上大変



重要なことですが、一般の授業ではあまりこのような機会がありません。いまの英語教育で、英語を聞いたり話したりする能力が高くなるだけでなく、日本語でも意見を述べたり、発表する意欲も高まるのではないかと考えています。教育の成果をはかることは難しいのですが、学生の皆さんが、英語で話しかけられても物怖じせず英語で返事をしたり、自分の意志を表現できるようになったことは、はっきりした成果だと考えています。また、学生による授業評価で、現在の英語教育が以前のものよりも強く指示されていることも成果というべきでしょう。

学生の声、学外からの評価の声などがありましたら、教えてください。

先にふれましたが、授業評価アンケートで現在のコミュニケーション重視の英語教育は高く評価されているといえます。また、国立大学としてはこのような英語教育内容の大きな転換をした例はあまりなく、全国の大学から注目されここ3年間に多くの視察・訪問を受けています。

現段階で、共通教育の英語教育が抱える問題は何ですか？

英語を使うには「聞く」「話す」「読む」「書く」の4つの能力が必要です。現在の英語教育は中学校、高等学校での教育が「読む」しかも一つ一つの単語を日本語に訳しながら読む、ということに過度に集中していたと判断し、「聞く」「話す」に重点をおいた内容になっています。しかし、文部科学省の英語教育に対する考え方は、愛媛大学が英語教育改革をはじめたのと同じ頃から、コミュニケーション重視の方向に転換しつつあります。したがって、これからの入学生は「聞く」「話す」についてもある程度の能力をもって入学してくると考えられます。このような入学生の英語力の変化にも柔軟に対応しながら、「聞く」「話す」「読む」「書く」の4つの能力を総合的に高めるような英語教育プログラムを作ることが、これからは常に求められると考えています。

また、卒業していく学生の皆さんに求める英語の能力について、大学として同じなのか、学部ごとに違うのかについては、まだ十分に議論されていません。大学全体の英語教育の目標をもっと具体的ににして、共通教育英語では何をすべきなのか、明確にする必要があると考えています。

英語教育センター長として、本年度の達成目標は何ですか？

英語教育センターには現在6名の専任教員がいて、今年度中に新たに2名を採用して定員の8名になります。これらの教員が、学生の実情に柔軟に対応して、学生の皆さんの英語運用能力をどのようにして高めるのかをいつも考え、そのための教育プログラムを主体的に開発・設計するようになる、そのような英語教育センターにすることが、センター長としての目標です。

具体的には、現在の英語A、Bに対する学生の反応や教員の意見をもとに、来年度に向けて英語A、Bの新しい英語教科書（コースブック）を作成します。また、学生の皆さんの、「自ら勉強したい」という意欲に応えられるよう、現在の語学自習システムを利用しやすいものにするよう、予算を文部科学省に申請します。また、各学部で英語教育を担当しておられる教員の方々と話し合いをもち、卒業生の備えるべき英語運用能力を具体化するとともに、協力関係を強めたいと思っています。

(聞き手 佐藤浩章 大学教育総合センター)

まなべ・たかし

理学部教授 大学教育総合センター 副センター長(併)

1967年3月京都大学理学部化学科卒業、1969年3月京都大学大学院理学研究科修士課程修了、1973年5月京都大学大学院理学研究科化学専攻博士課程修了。

専門分野 分析化学, 生化学, 電気泳動

▼ 大学改革に関する教職員の皆さんの意見を掲載します。こちらがインタビューに伺うこともありますが、投稿も受け付けております。随時連絡をお待ちしております。巻末の◎印の編集委員までお願いします。

センターニュース

平成15年度新任教職員研修会が開催されました。

共通教育企画・

実施部全体会が開催されました



共通教育企画・実施部の平成15年度委員が確定し、4月24日(木)17時30分より全委員が一同に会した全体会が開かれました。11の部会を合わせると約80名にも及ぶ大所帯なので、アフターファイブの時間帯に設定せざるをえませんでしたが大方の委員に出席いただけました。委員の方々のご協力を感謝いたします。

当日は西頭センター長の挨拶の後、資料に基づき松久企画・実施部長より今年度の企画・実施部の懸案事項について説明があった後、部会毎に部会長が互選されました。今回のIECレポートでは今回選出された部会長の紹介特集を組んでいます。

部会は共通教育の実施を担う最前線です。平成16年度は、現行の「共通教育ルネサンスプラン」が4年目の節目をむかえる年であると共に、本学が「国立大学法人」としての第一歩を踏み出す年です。教育の質的向上に向けて成果が厳しく問われる中で、各部会とも多くの問題解決にあたらねばなりません。部会長をはじめ、各部会委員の方々には大変な役割をお願ひすることになりますが、力を合わせて荒波を乗り越えましょう。

第51回中国・四国地区大学教養教育研究会が本学において開催されました

去る5月31日(土)、6月1日(日)の2日間、第51回中国・四国地区大学教養教育研究会が、本学において開催されました。



研究会は、半世紀の長きにわたり、教養教育のありかたについての意見交換の場として、歴史的に重要な役割を果たしてきましたが、51回目にあたる今年度は、本学に当番校がまわってきたことを契機として、会則の許す範囲で、教養教育だけでなく、大学教育の改革戦略に関わる緊急性の高い問題を取り上げることとしました。

このため、メインテーマは「大学教育の改革戦略」とし、従来の国立、公立、私立、短大別の4部会を合同して、次の6つのテーマ別セッションを開催することとしました。

- ①「キャリア教育の取り組み」
- ②大学間連携
- ③一般教育と専門教育の連携
- ④「国立大学・医科大学」の教養教育
- ⑤学生参加型授業
- ⑥学生参画型大学運営

一方、従来から行われてきた教養教育の分野別分科会は、形の上ではそのまま残し、その内容をそれぞれの分野の教育に関わる研究もしくは実践報告に組み替えました。また新たにパネルディスカッション形式のシンポジウムを設定しました。

本研究会としては初めての試みであり、当番校としては暗中模索の運営でしたが、他大学の参加者からは好評でした。評議員会でも、せっかくだからもう少しこの方式でやってみてはどうか、という意見が多く出され、次年度の当番校である島根大学に取り扱いが一任されました。

「大人数のクラスを打ち解けた雰囲気にするには…」

Q. ゼミでは学生とのコミュニケーションがうまくとれますが、大人数の講義ではうまく意思疎通できず、不安を感じています。特に今の学生は無表情なので何を考えているかわかりません。



「共同的な感覚を作り上げる」

A. 大人数の授業で、学生の集中力を保つのは非常に難しいことです。とりわけ共通教育の授業は、学部も異なり共通の話題を持ちにくく、「教壇に立つのが緊張する」(医学部教員)という方もおられます。大人数の講義では、学生は匿名性という殻をかぶり、教員の問いかけを無視したり、私語を始めたりします。学生にとっては、情報を一方的に提供される状況になり、教員と学生の関係は、テレビのタレントと視聴者というつまらない関係になってしまいます。

以下では、大人数の授業であっても、学生個々の存在を明確にし、自らも授業を作り上げている主体であることを意識させるためのいくつかの方法を考えてみます。

[空間をフルに使う]

広い教室の中でも、教員が通路を通過して動き回ったり、資料を配布したりします。教員が近くにやってくることで、リアリティを感じさせます。小グループやペアで議論をしてもらう際には、実際にどこかのグループに入ってみるのも一つの手です。その際、「なるほど。それはおもしろい意見だね。」などと声をかけてあげると更に、学生との距離を小さくすることが可能となります。

[学生が互いのことを知り合うことを奨励する]

米国での先行研究によれば、「個人が認められない教室では、級友や教員に対する責任を感じる割合が低い」とされています。また、クラスで自分が無名の存在だと思っている学生は、学習の動機づけ

が比較的弱く、必要な作業もしない傾向があり、逆にクラスに共同体の感覚を抱いている学生は、より集中し、参加の割合も高くなっているようです。大人数の講義でも、できるだけ二人、三人での共同作業を盛り込むようにします。その際、仲の良い友人だけで固まらないように、異なる学部の学生だけでチームを作るように指示したりします。

[何人かの名前を覚えて、学生を名前で呼ぶ]

大人数授業では、全ての学生の名前と顔を一致させることは不可能です。しかし学生は、教員が数人でも学生の名前を覚えようと努力する姿勢を評価しています。質問をした学生やコメントカードに良い意見を書いた学生がいた場合には、次回にその質問や考えを引用して紹介することも有効です。最初のうちは、そうした行為を嫌がり、匿名のままにいたがる学生がいるかもしれません。しかしそこで揺らいではなりません。もちろんプライバシーに留意することは必要ですが、質問したり意見を述べたりすることは大事なことであり、恥ずかしいことではないということを説明し、それを歓迎する雰囲気を作り出さなければなりません。そうしなければ、教員にだけには意見表明するという依存的な関係を作り上げてしまうこととなります。

[学生に無名の聴衆の一人ではないことを知らせる]

多くの学生は、自分たちが教室でやっていること(飲食、私語、居眠り、遅刻など)が気づかれないと思っています。つまり、大人数講義で教員は、学生に関心を持っていないと考えているのです。教壇からは、全て良く見えていて、それぞれの行為が、授業にどのような悪影響を与えているのかを説明します。

参考文献：『授業の道具箱』（バーバラ・グロス・デイビス 東海大学出版会 2002年 2800円）

▼ 大学教員が授業をする上で役立つコツ（ティップス）を伝えます。こんなテーマについて取り上げて欲しいという方は、巻末の編集委員までご連絡ください。

(4) 平成13年度着手の大学評価に関する意見について

本件について、持ち回りセンター運営委員会で出た意見等について報告があり、審議の結果、原案のとおり処理したことについて、承認された。

(5) リンクカリキュラム(仮称)について

教育改革推進委員会委員長から、大学教育審議会への現状報告案について提案があり、種々審議の結果、一部修正の上、報告することになった。

なお、教育学部委員、農学部委員からそれぞれの学部で説明会を実施して欲しいと提案があり、日程調整を行うこととなった。

(6) 大学教育総合センター経費について

本件について予算小委員会委員長から、提案があり、審議の結果、承認された。

(7) 高大連携の取り組みについて

センター教育システム開発部長から、このことについては平成16年度から実施したいので、すでに実行している大学や実施方法について調査し、検討したいと提案があり、承認された。

(8) 附属図書館図書選定小委員会委員について

委員長から、このことについて図書館長から依頼があったので、委員の選出については、センター長一任とさせて欲しいと提案があり、承認された。

(報告事項)

(1) 第1回4大学間学生交流自主的・実践的研究交流プロジェクト及び第3回愛媛大学学生の自主的調査・研究プロジェクト合同発表会について

5月10日(土)に実施したこれらプロジェクトについて、報告があった。また、委員から、4大学間学生交流自主的・実践的研究交流プロジェクトを支える委員会等がないこと、学生の旅費など問題があることについて、意見が出され、今後の検討課題とすることとした。

(2) 委員長不在時に運営委員会を開催することについて

委員長から、このことについて規程的にも問題がないことについて説明があり、委員長不在時に開催した場合は、松久副センター長(共通教育企画・実施部長)が議長を務めることとなった。

センター日誌

4月

- 4日(会議)第1回インターンシップ委員会
- 〃(会議)第1回教育改革推進委員会
- 7日 入学式・歓迎プログラム
- 8日 第1回火曜ナイトサロン
- 9日(会議)愛媛県インターンシップ実行委員会
- 10日(会議)第1回運営委員会
- 16日(会議)第2回インターンシップ委員会
- 21日(会議)第1回英語センター運営委員会
- 22日(会議)第1回キャリア教育委員会
- 〃(会議)第1回予算小委員会
- 23日(会議)第2回運営委員会
- 24日(会議)企画実施部 部会全体会
- 〃 リンクカリキュラム説明会(法文学部)
- 〃(会議)FD委員会
- 〃(会議)持ち回り運営委員会
- 30日 外国研修報告会

5月

- 6日(会議)第1回共通教育企画委員会
- 7日(会議)第2回教育改革推進委員会
- 8日(会議)教育システム開発部運営委員会
- 10日 愛媛大学「学生の自主的調査研究プロジェクト」
- 〃 中国四国4大学間学生交流・実践的研究プロジェクト
- 13日(会議)センター自己点検評価委員会
- 14日(会議)持ち回りインターンシップ委員会
- 〃(会議)施設・環境小委員会
- 19日(会議)共通教育企画・実施部企画委員会
- 21日(会議)第3回センター運営委員会
- 〃(会議)共通教育研究会実行委員会
- 22日 リンクカリキュラム説明会(理学部)
- 26日(会議)第2回英語センター運営委員会
- 28日(会議)教育改革推進委員会
- 〃(会議)愛媛県4大学インターンシップ実行委員会
- 31日 中国・四国地区大学教養教育研究会

シリーズ 授業に役立つ工具箱(2)

多様な授業の方法を知るWEBサイト

「生涯職業能力開発促進センター」

(<http://nokai.ab-garden.ehdo.go.jp/giho/main.html>)



今回紹介するのは、生涯職業能力開発促進センター（アビリティガーデン）の作った「能力開発技法一覧」です。アビリティガーデンは、雇用・能力開発機構が設置、運営する公共職業能力開発施設です。ですから、ここで紹介されている様々な授業方法は、企業での社員教育向けのものなのですが、大学の授業にも有効です。

ここでは目的別に様々な技法が紹介されています。例えば、「知識伝達に適した技法」としては、講義法、AV視聴覚訓練、CAI、理解促進テスト法、キーワード連結が紹介されています。その他「技能・技術の習得に適した技法」「問題解決に適した技法」

などが続き、50ほどの手法を学ぶことができます。

私たちは、授業と言った場合、すぐに講義を連想しますが、講義法は「一度に大勢の人に大量の知識・情報を伝達できる。」というメリットがあると同時に、「講師が伝えたとおりに受講者が理解するとは限らない」「学習の歩留まり（効率）が低い。」「受講者が受動的になりやすい。」といったデメリットもあります。これらのメリット、デメリットを理解した上で、講義法を選択する必要があります。このサイトでは、このように様々な方法の存在とそのメリット、デメリットを知ることができます。

もちろん、授業の目標、学生に何を身につけてもらいたいのかによって、授業の方法は変わるのが理想です。しかし、実際は様々な制約があります。とりわけ大学のような教育機関においては、対象者や場所、日程などが限定され、フレキシブルな授業形態を選択できないという現実があります。

様々な授業形態を現実化しようとするれば、学期制のあり方、カリキュラムのあり方、教室の形など、考え直さなければならないことが複数生じてきます。

▼ 大学教員が授業をする上で役立つ書籍、WEB情報を紹介します。取り上げて欲しいテーマがある方は、巻末の編集委員までご連絡下さい。

学生の声

「昨年まで授業の人数制限は200人だったのが、今年から150人になったのはなぜか。受たい授業を受けられない大学なんて聞いたことがない。特に1回生で抽選にもれた人は大変なのではないか。今回のことで印象を悪持った1回生はたくさんいると思う。今後どうしていくつもりなのか。」

センターから学生へのコメント

共通教育の授業は学生数と担当教員スタッフ数のバランスと、教育効果を考え合わせ、平均80人程度の受講生数を想定して設計されています。昨年までの200人という上限数は、この基準の2.5倍であり、教育効果の面であきらかに無理がありました。このことは担当する教員からも当該授業を受講した学生からも問題であるとの指摘がありました。150名という数字はせめて基準値の2倍以下ということで設定したもので、本来ならばこれでも無理があると考えております。しかし現時点における共通教育の運営上、ぎりぎりやむをえない数字が150名

ということです。

本質的にはたしかに好ましいことではありませんが、本学と同じような理由から受講生数の上限を設定している大学は全国的には数多くあります。くりかえしますが、決して好ましいことではありません。なにか、抜本的な解決策となりうる履修システムの導入が必要で、現在研究中です。

共通教育は基本的に2回生前学期までの間に履修することになっています。すなわち履修機会は原則として3回ありますので、次の機会に履修してください。

あなたの質問については、具体的な状況がわかりませんので、上記はごく一般的な回答でしかありません。ひょっとしたら答になっていない可能性もありますので、よろしければもう少し事情を教えてください。大学に直接話しにくければ、学生による相談窓口（ピアサポートルーム）にお越しいただき、学生ボランティアの相談員（学生さんです）に話してみてください。

（共通教育企画・実施部長 松久勝利）

「第一体育館二階のダンス場の窓ガラスは、ビニールをガムテープで貼ったままでずっとあるのですがガラスを入れる予定はないのですか？

開かない窓もあるのですが。」

センターから学生へのコメント

コメントありがとうございます。今後もどんどんコメントをお願いします。

窓ガラスについては、早速入れ替える予定です。開かない窓については、数年後（未定）に改修工事をする予定になるので、それまでは現状のままです。

今後はガラスの破損については、気がついた時、速やかに教育学部学務係までお知らせください。

▼ 学務部教務課（第一学生サービスセンター）前掲示板と共通教育係前に設置された「共通教育何でも意見箱」もしくは「WEB 何でも相談」に寄せられたコメントとそれに対するセンター専任教員からのコメントを掲載します。学生の意見とセンターからのコメントは、教務課前掲示板で見ることができます。

■■■IEC レポート No7■■■

愛媛大学大学教育総合センター広報誌

発行日：2003年6月1日

発行元：愛媛大学大学教育総合センター

〒790-8577 松山市文京町3番

TEL 089-927-8904（代表）FAX 089-927-8915

<http://www.iec.ehime-u.ac.jp/iecweb/index.html>

編集者：愛媛大学大学教育総合センター広報小委員会

中村慶子（医学部）

折本素・松久勝利・◎佐藤浩章（大学教育総合センター）

内容に関する意見・要望・お問い合わせは、◎印の委員までお願いします。sato@iec.ehime-u.ac.jp 内線 8346